Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-09

<研究>リーフマン經濟原論ノ心理的立脚地

山口, 正太郎

(Citation)
經濟學商業學國民經濟雜誌,30(2):228-240

(Issue Date)
1921-02

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053285

研究

リーフマン經濟原論ノ心理的立脚地

同志社大學教授
法學士　山口正太郎

一

最近ニ出タ獨逸ノ理論經濟學ノ中デリーフマンノ原論 R. Liefmann, Grundsätze der Volkswirtschaftslehre. Bd. I. 1917. Bd. II. 1919. ハ蓋シ出色ノモノデアロウ。此書ノ第一卷ガ出版サレテ二年目ニ、ワイヤーマン教授 Prof. Weyermann. ハ、コンラード誌上ニ批評文ヲ載セタ、Conrad's Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik, Mai 1919 S. 579–589. 又リーフマンガ此書ノ第一卷ノ重要部分ヲ形成スル「限界收益均等ノ法則」Das Gesetz des Ausgleichs der Grenzerträge ヲ同誌ニ公ニスルト Conrad's Jahrbücher, Januar 1917. S. 1–64 カール・エングリス教授 Prof. Karl Englis, Brünn. ハ之ニ對シテ批難ノ文ヲ出シタ。Conrad's Jahrbücher, Oktober 1917. S. 385–422. 今此等ノ批評文ヲモ參照シツヽリーフマン原論第一卷ノ基調ヲナセル心理的考察ヲ叙述解剖シテ行カウト思フ。

リーフマンガ原論ヲ著シタ動機ノ一ツハ從來ノ經濟學ガ根本的ニ謬レル物質的立場ニ基礎ヲ置クカラ此誤謬ヲ是正シ併セテ自己ガ新說ナリト認ムル心理的立脚地ヲ高調ショウトシタ事デアロウ。

リーフマンハ從來ノ經濟學ヲ物質的數量的觀念ニ捉エラレタル財學說 Güterlehre ダト罵倒スル。假令從來ノ經濟學ガ限界效用說等ノ主觀的價値論ヲ稱ヘテモ猶且其根據ハ、如何ナル財、幾何ノ分量ヲ慾望充足ノタメ調達 Beschaffung スルカト云フ數量的物質的觀念デアツテ經濟トハ必竟財ノ調達ト云フ事ニ歸スルコトヽナツテ經濟ト技術トヲ混同スルノ誤謬ニ陷ツテキルノデアル。

抑モ經濟トハ、リーフマンニ從ヘバ效用ト費用トノ比較考量ヲ意味シ、此比較考量ナル心理上ノ作用ニ從ツテ效用ガ費用ヨリ大ナリト認メタ時、其效用ノ費用ヲ超過セル部分ヲ收益 Ertrag ト名ケ、此收益ヲ出來ルダケ多ク得ルヨウニ行動スルコトヲ經濟行爲ト云フ。言ヲ換エテ云ヘバ最少ノ費用ヲ以テ最大ノ效用ヲ得ントスル所謂經濟主義ニ基ク行爲ヲ經濟行爲ト云フノデ此際ノ效用モ費用モ徹底的ニ考ヘルト前者ハ快樂ノ感情デアリ後者ハ不快ノ感情デアル、兩者トモ必竟吾人ノ心理作用ニ外ナラヌ。不快ノ感情ヲ犧牲トシテ之ヲ超過シタ快樂ノ感情ガアレバ其處ニ收益ガアル譯デ此收益ナル觀念モ結局ハ快樂ノ感情ト云フ心理作用デアル。

然ラハ經濟ト技術トハ如何ナル點デ異ルノデアロウカ、其ニハ從來ノ學說ヲ檢スル必要ガアル。

ヘルマンハ曰ク「經濟トハ財ノ調達、使用等ノ分量的方面ニ關シ、技術トハ財調達ノ質的方面ニ關

ス」Hermann, Staatswirtschaftliche Untersuchungen. 2 Aufl. S. 11, 67. ト卽チ量的質的ノ區別ヲ以テ經濟ト技術トヲ分タウトスル。乍然量的方面モ亦技術ト考エラレナイコトモナカロウ。此區別ハ本質的區別トハ云ヘナイ。チーツエルハ曰ク「技術トハ財ノ個々特殊ノ具體的ナ使用方法ヲ意味シ經濟トハ抽象的ニ財ヲ取扱ヘル場合例ヘバ勞働トカ資本トカ土地トカ一般的ニ云フ場合ヲ意味ス」Dietzel, Theoretische Sozialökonomik. S. 189, ト此技術ノ說明ハ正シイガ經濟ヲ以テ財ノ抽象的一般的取扱ノ場合ヲ意味スルト云フノハ充分デナイ、此考モ經濟ヲ以テ財ノ物質的考察ト云フ誤レル根本觀念カラ出タモノデアル。經濟トハ物質的變化デハナク、心理上ノ作用デアル。或人ハ又近頃問題トナレル自然科學ト文化科學トノ區別ヲ應用シテ技術ハ自然科學ノ取扱フモノデ經濟ト文化科學ノ範圍ニ屬スルト云フ。乍然此議論ハ(イ)經濟學ハ自然科學ナリヤ文化科學ナリヤニ就テ今猶議論ノアル處デアルカラ此疑問ヲ既ニ決定シタモノト早斷シタ誤謬デアリ(ロ)技術ハ必ズシモ總テ自然科學的ナモノトモ云ハレナイ、藝術的ナ技術モアロウ(ハ)一歩進メテ技術トハ人ト財トノ關係ヲ意味シ經濟トハ人ト人トノ間ノ社會的關係デアルトモ考エラレナイ、何故ナラバ人ト人トノ關係ノ中ニモ經濟的關係デナイ場合モ多イ、又慾望充足ノ點カラ見テ人ト財トノ關係ノ中ニモ經濟的關係ガ甚ダ多イ。其故此區別モ適當トハ云ヘナイ。Liefmann, Grundsätze S. 325—329.

ゾムバルトハ經濟生活ヲ以テ技術ト法律關係トカラ成立シテイルト云フ、彼ニ從ヘバ經濟行爲トハ技術ヲ意味シ、經濟關係トハ人ト人トノ法律關係ヲ云フ。Sombart, Die Elemente des Wirtschaftslebens, Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik 1913 Bd 37, S 1. 又曰ク「經濟トハ生活

維持ノ目的ノタメノ技術ト法律トノ完全ナル關係ヲ云フ」ト。Sombart, S. 30. 乍然此技術ト法律トノ完全ナル關係ト云フ內容ガ曖昧デアル。ゾムバルトノ考ハシユタムラー等ノ社會法的研究方法カラ借リ來ツタモノデアロウガ此議論ノ基調ヲナスモノハ物質的數量的觀念デアツテ此觀念ニ捉エラルヽ限リ經濟ノ眞相ハ解シ得ラレナイ。

ゴツトルハ經濟トハ行爲ニ於ケル秩序ヲ意味ストナシ唯一ツノ目的ヲ考エテ行爲スルノデナク其他ノ目的ヲモ考察シ多方面カラ考エテ而シテ後行動スルノヲ經濟行爲ト云ヒ。此行爲ニ表ハレル具體的方面ヲ技術ト云フ。Gottl, Wirtschaft und Technik, Schriftleitung Max Weber, Grundriss der Sozialökonomik Bd II, S. 208—210. ト乍然此說明デハ兩者ノ區別ハ曖昧デアル。

以上諸家ノ議論ヲ見ルニ技術ノ觀念ハ正シク解カレテヰルモノガアルガ經濟ノ觀念ニ致ツテハ甚ダシク誤解サレテヰル。從ツテ兩者ノ區別モ本質的ニ徹底的ニ述ベラレテハヰナイ、然ラバ技術ト經濟トハ本質的ニ如何ナル差別ガアルノデアロウカ。Liefmann, S. 332—334. 經濟ト技術トノ差異ニ就イテ先ヅ考エラレルノハ前者ハ目的ニ關係シ後者ハ手段ニ關係スルコトデアル、此點ニ就テ詳シク考察スル必要ガアル、技術ノ中デモ演劇、音樂、乘馬等其自身ニ目的ヲ有スルモノガアル。乍然之等デモ目的ト手段トハ判然ト分タレルモノデ演劇ニアツテハ人類ノ向上ヲ目的トスル舞臺藝術ソノモノハ目的デアツテ演劇ノ表現方法ハ手段デアル。音樂ニ於テモ乘馬ニ於テモ、樂器、馬具、演奏方法、制御方法等ハ手段ニ屬シ目的ハ之以外ニ存在スル。其處デ技術トハ手段ノ合理的ナ使用ヲ意味スル事ニナリ、食事ニモ衣服ヲ着ル事ニモ寢ル事ニモ技術ガ存在スルコトニナル。技術ニハ

二種類アル。(一)手段ガ與エラレ此手段ヲ以テ出來ルダケ多クノ目的ヲ達スル場合(二)目的ガ與エラレ此目的ヲ達スルタメ出來ルダケ手段ヲ少ク使用スル場合、之レデアル。然ルニ此外ニ猶、手段モ目的モ與エラレズ卽チ不定デアツテ單ニ最少費用最大效果ナル經濟主義ニ從ツテ費用ヲ最モ少クシ併セテ效果ヲ最モ多クショウトスルコトガアル。之ガ經濟其モノデアル技術ニ對抗シタ經濟ノ意味ハ目的ト手段トガ不定デアツテ前者ノ最大、後者ノ最少ヲ計ル事デアル。何レカ一方ガ定ツテキテ他方ガ不定ナ時ハ技術デアツテ兩者ガ不定ナ際ガ經濟デアル。Liefmann. S. 341. 次ニ此兩者ノ中間範圍ガアル、其ハ技術ニ於テ手段ノ提供ガ經濟的意味ノ費用卽チ何等カノ勞働或ハ貨幣デアル場合ガアル、此等ノ經濟的要素タル費用ノ觀念ガ技術ノ中ニ入リ來ツテ勞働或ハ貨幣ノ提供ト云フ時ニ特ニ經濟的技術 die ökonomische Technik ト呼ブノデアル。以上ハリーフマンガ特ニ高調セル技術ト經濟ノ區別論ノ要旨デアル。

(註) ゾムバルトハ「現代資本主義論」(新裝ハ四册ニ分タル)ノ卷頭ニ技術ト經濟トニ就テ述ベテ居ル、氏ニ從ヘバ人類ハ他ノ動物ト等シク生物デアルカラ生活維持ノ努力ヲ必要トスル、其以上ノ文化的努力ノ存在スルハ事實デアルガ、然シ生物タル限リ生活維持ガ最緊要事デアル、生活維持ノタメニハ財ヲ生產シ調達スル事ヲ要スル、於茲、技術ガ發生スル、廣義ニ解シタル技術ハ次ノ部分カラ成リ立ツ(一)自然物、或ハ財ニ關スル智識、即チ自然物ノ素材、自然力ノ人生ニ效用アル事及ビ其利用ニ關スル智識(二)此利用ノ行爲、此ハ二ツニ分レル (A)分解 (B)綜合、此等ガ發生シテ器具使用ノ技術 die instrumentale Technik トナル、次ニゾムバルトハ經濟ヲ解シテ人類ノ生活維持ノ努力ヲ總稱スルモノトシテ廣義ノ經濟ノ中ニ經濟主體、經濟的精神、經濟主義、技術、勞働組織ヲ含メテ居ル、從ツテ技術ハ經濟ノ一種ト看做サレテ居ル。リーフマンニ依ハシムレバゾムバルト説ハ物質的經濟觀ニ捉ハレタモノト罵倒スルデアロウ、Sombart, Der moderne Kapitalismus. 3 Aufl. 1919. Bd I. Teil I, S. 3–13

三

リーフマン經濟學ノ中心思想ノ一ナル經濟技術區別論ヲ叙述シタ予輩ハ更ニ氏ノ原論ノ基調ヲナセル心理的考察ノ中核タル限界收益均等ノ法則ヲ解說セナケレバナラヌ。

限界收益均等ノ法則 Das Gesetz des Ausgleichs der Grenzerträge ハ既ニ千九百十二年ノコンラード誌上ニ其萠芽ヲ發表シ千九百十七年一月ノ同誌上ニ六拾頁ニ亘ツテ詳細ニ論ジ更ニ原論中ニ收錄シタモノデ Liefmann, Grundsätze. S. 397－447. 其基礎ハゴツセンノ限界享樂均等法則デアル。ゴツセンハ乍然享樂又ハ效用ノ點ノミヲ重要視シテ費用、犧牲ノ方面ヲ看過シタノガ其弱點デアルカラ、ゴツセンノ該法則ニ更ニ費用ノ考ヲ取入レタモノガリーフマンノ法則デアル。（拙稿「ゴツセンノ限界享樂均等法則ニ就テ」國民經濟雜誌大正五年五月號、拙稿「ゴツセン研究」同志社論叢第二號 Schumpeter, Das Wesen und Hauptinhalt der theoretischen Nationalökonomie. 1908. S. 131 Pantaleoni, Pure Economics, Eng. trans. p. 35. 等參照）

ゴツセンハ多クノ財ヲ享樂スル際、生理上享樂ハ漸減スベキヲ以テ各財ヨリ享クル快樂ノ最後ノ分量ヲ等シカラシムル樣ニスレバ全體トシテノ享樂ノ量ハ最大デアルト云ツテ幾何學的圖形ヲ用ヒテ詳細ニ說明ヲシタ或財ニ享樂ヲ固定セシメナイデ其財ノ享樂ヲ或點デ打切リ其餘力ヲ以テ他ノ財ノ享樂ヲ初メ其財ノ享樂ヲ前ノ財ノ最後ノ享樂ト等シイ點デ止メ更ニ餘力アル時ハ次ノ財ノ享樂ニ移ルガ最大ノ享樂ヲ得ル方法デアル、幾何學的圖形ヲ用フル時ハ斯クスルガ享樂ノ全面積最大ナル

コトハ一目瞭然トシテ判明スル。ゴッセンノ此法則ハ乍然享樂ノ方面ハカリヲ論ジテ享樂ノ際ニ犧牲トスル、勞力、費用等ヲ無視シテヰルカラ此費用ノ考ヲ付ケ加エテ考察セネバナラヌ。經濟上ノ問題ニハ費用ノ例ヲ考慮ニ入レネバ快樂ノ方面ダケデハ單ナル心理學上ノ問題トナッテシマフ。

人間ガ或行爲ヲナサントスル時ハ得ベキ效用ト失フベキ費用トヲ比較考量スルモノデアルガ此際效用ノ方大ナリト思惟シタル時、初メテ何等カノ行爲ガ成立スル而シテ效用ノ費用ヲ超過シタル部分ガ收益デアル。或財ヲ享樂スル時、效用ガ費用ヲ超過シ餘剩效用卽チ收益ヲ伴フトスレバ、效用漸減法則ノ作用スル限リ漸次效用ハ減少スベク斯クテ其享樂ヲ止メタル點卽チ限界收益 Grenzertrag ヲ多クノ財ノ享樂ノ際、等シクナル樣ニスレバ全體トシテノ收益ハ最大トナルモノデ斯クスルコトガ經濟ノ本質デアル。費用ト效用トヲ比較シ後者ノ最大量ヲ得ルコトヲ經濟トスレバ其ハマーシャルノ說ク消費者餘剩 Consumers rent ト同ジデハナイカトノ疑問ガ起ルガ、然シマーシャルノ消費者餘剩ハ價格ノ問題ト關聯シ客觀的ニ貨幣量ヲ以テ說明セラレテヰルガリーフマンノ效用費用ノ比較、從ッテ收益ノ考ハ全然心理的デアッテ毫モ客觀的ノモノデハナイトマーシャルトノ差異ヲリーフマンハ力說シテヰル。Liefmann. S. 439. 今、煩ヲ避ケズシテ少シク數字的ニ說明スレバ

C 5 4 3 2 1 0

B 8 4 2 1 0

A 10 8 6 4 2 0

ABCノ三ツノ財ガアッテ其一個宛ノ效用ヲ各數字記載ノ如シト假定スル。或人茲ニ拾六「マーク」

ヲ所有ストシABハ各一個貳「マーク」、Cハ一個壹「マーク」トセバ（費用ハ結局不快ノ感情Unlustgefühl デアルガ之ヲ假リニ貨幣額ヲ以テ客觀的ニ表ハストシ）A財ヲ四個、B財ヲ貳個、C財ヲ四個購フニ至ル。蓋シA財ハ一個貳「マーク」デアルカラ四個目ハ效用ハ費用ノ二倍トナル。而シテB財ノ二個目ハ效用四ニシテ費用二ナルヲ以テ效用ハ費用ノ二倍トナリC財ハ一個一「マーク」ナルヲ以テ四個目ハ效用ハ費用ノ貳倍トナリ限界收益ハ均等トナルヲ以テ合計拾六「マーク」ノ支出ヲ以テ購ヒ得ル效用從ツテ收益ノ最大ヲ得ルコトヽナルモノデアル。Liefmann. Conrad,s Jahrbücher Januar 1917. S. 25.

此說明ニ對シテ反對シタノハカール、エングリス敎授デアツテ或財ノ效用ヲ拾トシ費用ヲ參トスレバリーフマンノ計算ニヨレバ效用ト費用トノ比ハ 10：3 デアルカラ費用ノ一單位ニツキ效用ハ $3\frac{1}{3}$トナル。乍然此計算ヲ離レテリーフマンノ主張タル收益トハ效用ノ費用ヲ超過セル部分ナリト云フ時ハ收益ハ 10－3＝7 デアツテ收益ト費用トノ比ハ 7：3 デ費用ノ一單位ニツキ收益ハ $2\frac{1}{3}$デアル。リーフマンノ前述ノ數字ノ例ハ效用ト費用トノ絕對量ノ比較デアツテ彼ノ所論ノ收益トハ無關係デアル限界收益ノ事ヲ考エルナラバ其計算ハ之ト異ツテ效用ノ超過部分ト費用トノ比ヲ求メネバナラヌ。リーフマンノ自己本來ノ主張ト數字的說明トハ矛盾スルモノデアル。今議論ヲ一層簡單明瞭ナラシメンガタメニ次ノ例ヲ引用スル。效用ガ三デアツテ費用モ亦三デアル時ニハ餘剩效用ハ零卽チ收益ガナイカラ誰モ敢テ利用行爲ヲ起サナイ。然ルニリーフマンノ計算ニヨレバ 3：3 卽チ $\frac{3}{3}=1$ デアツテ零ニハナラナイ、此際他ニ零ノモノガアルトスレバ或ハ此一ナル比例ヲ追ツテ利用行爲ヲ起スカモ知レナイ。之ハ誤謬デアルコトハ誰デモ氣ガ付ク事デアロウトリーフマンノ缺點ヲ指摘シ

テキル。Karl Englis, Conrad's Jahrbücher, Oktober 1917. S. 391, 392

四

エングリズ教授ハ方法論上カラ嚴密ニリーフマン説ヲ批評シテキル。リーフマンガ財ノ生産ヲ技術トシ經濟行爲ハ單ニ心理上ニ於ケル經濟的考量デアルトシタ所謂心理的立場ガリーフマン氏ノ色彩鮮明ナ點ダト賞讃シツヽ方法論上ヨリハ非難シテキル。

生産ハ現實的自然的ナ因果關係ヲ意味シ自然ノ過程ノ一種デアル、經濟トハ斯カル自然現象トハ異ツタモノデナケレバナラヌ。茲ニ認識論ノ問題ガ存在スル。對象ヲ自然現象トシテノ存在、原因結果ト云フ見方カラスレバ效用アリヤ否ヤハ説明スルヲ得ナイ。效用アリヤ否ヤハ目的觀念カラ見ナケレバナラヌ。對象ガ赤イトカ黑イトカ柔カイトカ固イトカ云フ自然現象トシテノ性質ノ考察以外目的ヨリ考エナケレバナラヌ、效用ハ人ガ欲スルヤ否ヤニヨル、或物ガ欲セラレ gewollt 或ハ欲セラレヌ nicht gewollt ト云フ目的觀念ヨリシテ效用ガ生ズル。Bガ欲セラレルカラAガ欲セラレルトハAトBトノ自然的因果關係デハナイ、Bガ目的デアツテAハ手段デアル、其關係ハ Causa finalis デアル、目的ト手段トハ決シテ自然的因果關係デハナク existente デナクテ gewollte ノ關係デアル。

茲ニ一歩ヲ進メテ欲セラルヽヤ否ヤデナクテ當爲 Sollen 卽チ何ガ故ニAガ存在セネバナラヌカ Warum soll A sein? ノ問題ガアル、之ハ規範的學問 Normative wissenschaft ノ對象デアツテ自然

法則的因果關係 Causa efficiens デモナク意慾的關係 causa finalis デモナクテ論理的妥當 'causa cognoscendi ノ問題デアル。其處デ學問ノ考察方法 Betrachtungsweise ハ二ツデナク三ツデアルコトニナル。

經濟學ノ研究方法ハ然ラバ以上三者ノ中何レニ屬スルカ、經濟學ハ經驗科學デアル限リ規範的學問デハナイ。ソハ當爲 Sollen ヲ扱フモノデハナイ、而シテ又自然現象ノ考察デモナイ、何故ナラバ效用アリヤ否ヤ、欲セラルヽヤ否ヤノ問題ヲ中心トスルカラデアル。

效用非效用ハ一線ニ於ケル「プラス」、「マイナス」ノ變化ヲ意味スル、然ラバ此變化ノ積極、消極方向ノ出發點ハ何デアルカ、ソレハ人間ノ意思デアル、而シテ意思ハ常ニ目的觀念ヲ伴フモノデアル、此目的觀念ハ既ニシュタムラー、ストルツマン等ニヨツテ高調セラレタ處デアルガ此目的觀念ヲ伴フ意思ヲ慾望ト解シテリーフマンハ主觀的立場ヲ明瞭ニシタ、此目的觀念ニハ主觀的ノ場合ト客觀的ノ場合トアル。リーフマンハ主觀的立場ヲ採ツタガ客觀的立場トハ例ヘバ子併ガ玩具ト書物トヲ比較考量スル時、教育ト云フ客觀的目的觀念カラスレバ書物ノ方ヲ取ラスベキデアル。茲ニ經濟學ニ主觀派ト客觀派トノ對立ヲ見ルノデアルガ何レニシテモ目的觀念ヲ伴フ意思ヲ中心トスル事ヲ經濟學ノ對象トシテモ、欲セラレルト云フコト gewollte ハ必ズシモ經濟的 wirtschaftich ト同ジコトデハナイ、欲セラルヽコトノ中デ或ル特殊ナモノガ經濟的デアル。然ラバ經濟的ナル最高ノ目標ハ何デアルカ、其ハ主觀的ナリヤ客觀的ナリヤ、經濟學ノ最高前提ハ主觀的デアルカ、客觀的デアルカ、リーフマンハ主觀的ナリト解シタ卽チ快樂感情ノ最大ト不快感情ノ最少ト云フ感情ノ狀態 Ge-

fühlszustand トシタ。彼ハ主觀的立場ヲ嚴守シテ生產關係ヲ自然因果ノ關係ト解シ經濟學ノ對象ニアラズトシタ、之ガタメニ彼ハ自已ノ學說ヲ心理的 psychisch ト誇ツテヰルガ心理的因果ハ却テ彼ノ排スル自然的因果デアツテ彼ノ稱フル psychisch ナルモノハ眞ノ psychisch デハナクテ個人的主觀的ト云フ意味デアル。リーフマンノ立脚地ハ心理的立場デナクテ寧ロ曖昧ナル主觀的立場ト云フ文字ヲ使用スベキデアロウ。Karl Englis, Conrad's Jährbucher, Oktover 1917, S. 416—422.

五

次ニワイヤーマン教授ノ概括的批評ニ移ロウ。

リーフマンハ經濟學ヲ心理的立場カラ取扱ツタ、其心理的立場ハ社會心理デハナクテ個人心理或ハ純主觀的立場デアル、經濟學ハ個人心理ノ研究ノミデ果シテ充分デアロウカ、茲ニ根本問題トシテ經濟學ハ其出發點ヲ個人心理ニ置クカ社會心理ニ置クカノ別ヲ生ズル。予輩——ワイヤーマン教授——ハ兩方ノ見方ヲ要スルト思フ兩者何レヲ可トスルヤハ研究セントスル問題ニヨツテ異ル例ヘバ價格ノ起原ノ問題ノ如キハ個人心理ノ立場カラ說明スベク、景氣不景氣ノ問題ノ如キハ社會心理ノ立場カラ解釋セナケレバナラヌ。殊ニ交通經濟ノ問題ハ社會心理ノ立場ヲ看過シテハ說キ得ナイ、其處デ經濟學ニハ兩方面ノ考察ヲ要スル事ニナル。リーフマンノ經濟學ニ於テ特ニ目ニ着ク缺點ハ社會心理的考察ノ缺如セル事デアル、リーフマンハ消費經濟ヲ中心トシテ其ヨリ營利經濟ニ及ボシテヰルガ消費經濟デハ個人心理的分子ハ成ル程可成リ强ク認メラレルガ營利經濟ノ範圍ニ移レバ社會

心理的研究ガ更ニ必要トナル。例ヘバ資本ノ觀念ハリーフマンハ貨幣收益ヲ擧グルガタメノ手段トシテ支出スル費用ヲ貨幣ニテ計量シタ額ヲ云フトシテキルガ、此際ノ貨幣ハ社會的分子無クンバ完全ニ說明シ得ラレナイ且ツ資本ノ觀念其モノハカール、マルクス、ロードベルツス、近クハアモンニヨツテ高調セラレタ如ク社會的內容ヲ有セルモノデアル。又財產ノ研究モ社會的立場カラ說カナケレバ甚ダ偏局的ナ事トナルデアロウ、單ニ個人ノ慾望滿足ノ手段ト解スルダケデハ甚ダ不充分デアル。要之、リーフマンノ理論ハ常ニ個人心理ノ立場カラ出發シテ社會濟經現象ヲ說明ショウト試ミタカラ或ル場合ニハ解キ得テモ社會現象トシテノ多クノ場合ハ完全ニ解明スル事ハ出來ナイ、甚ダeinseitig ノ感ガアル、此感ハシユタムラー、ストルツマン等ノ偏社會學的立場カラ見ルガ故デハナク冷靜ナ公平ナ見地カラ斯ク感ゼラルヽノデアツテリーフマンハ他ノ一面タル社會心理ノ立場ヲ輕視スル事無ク兩端ヨリ攻メテ萬全ヲ期スベキデアロウ。

以上ワイヤーマン敎授ノ概括的批評ヲ述ベタガ敎授ハ最後ニリーフマンガ餘リニ一本調子ニ他ヲ排斥スルノヲ戒メテ今少シク穩健ナラバ、他ノ同情ヲ得ルデアロウト云ツテキル。Weyermann, Conrad's Jahrbücher, Mai, 1919 S. 584–589.

要之、リーフマン原論第一卷約七百頁ノ大册ハ殆ンド全部個人心理的立場ニアツテ其特色ヲ發揮スルト共ニ又其弱點ヲ最モ明瞭ニ表ハシテキル、ワイヤーマン敎授ノ批評ノ過個人心理的缺點ハ誰シモ氣付ク處デアルト共ニ予輩ハリーフマンノ原論ガアレダケノ內容デアレバ斯ク迄長ク、冗漫ニ說明セズトモ、卽チ七百頁モ費ス要無ク僅々百頁モアラバ充分說明シ盡クサル事ト思ハレル、冗長

ナルコト、說明ノ巧妙ナルコト、ハ必ズシモ同ジコトデハナイ。而シテリーフマンガ從前ノ經濟學ヲ物質的數量的見解ノ誤謬ニ墮セル點ヲ痛快ニワイヤーマン教授ヲシテ sein Ton in der Polemik ....ein etwas gemässigterer werden, wodurch....die Sympathie für den Autor bei vielen gewinnen wird. ト云ハシメタ程、過激ニ論難シ去ツタ其批判的消極的方面ニハ首肯シ得ル處少カラザレドモ其積極的方面タル自己主張トシテノ心理的立脚點ノ說明ハ甚ダ物足ラザル感ヲ起サシムルノデアル。(完)